

**生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター芳川
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 7年 8月27日（水） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	南陽協働センター ホール
3 参加者	22名 委員12名（芳川4名、五島3名、河輪5名）、関係機関5名、市社協5名
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員紹介、正副会長について</p> <p>①新規委員3名の自己紹介</p> <p>②正副会長について</p> <p>会 長：五島地区社協会長</p> <p>副会長：河輪地区社協会長</p> <p>地区社協会長の交代により残任期間を就任してもらう。</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議体会議について、人口統計情報等 <p>②前回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度第3回芳川圏域生活支援体制づくり協議体会議の報告 <p>③意見交換</p> <p>【芳川地区】</p> <p>■地域性（町ごとの違い）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規模の小さい町は元々住んでいた人が多く協力性が高い。 ・規模が大きな町は意見がバラバラになってしまい、うまくまとまらない。また団体の組織化も難しい。（シニアクラブ、子ども会、バレーやソフト等） ・シニアクラブは地区内に6つあるが入会する人は減少している。 <p>■地域事情の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校が増えた。昔は芳川小のみであったが、今は芳川北小もある。それでも相生小へ越境通学もある。➡親が小学校の役を避けるためか？ ・昔は五島、河輪も同じ中学校区であった。 ・地域の変化に追いついていけない人もいる。 ・一人暮らし高齢者世帯が増えたが、子どもは遠方等で親子のコミュニケーションが希薄化している。➡ダイレクトに包括に相談がくる。 <p>■居場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者はたくさんいるが参加者は少ない。 ・シニアクラブやサロンに行かない人は「自分はまだ若いと思っている」が、そこから認知機能の低下が進んでしまう。 <p>■</p> <p>【五島地区】</p> <p>■高齢者の集いの場一覧表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7.2月以降の新たな居場所は把握していない ・9/8 西島町公民館 カフェの開催を予定

五島地区として開催。周知は回覧板で行った。
まずは1回やってみて、出来たら今年度で3回開催出来たらいいなと思っている。

遠州浜4丁目住民は会場となる公民館までの距離もあり、参加の見込みは薄いと懸念されるが、公共交通機関を利用して参加をいただけたらと促した。

■カフェとサロンの違いについて

カフェ…集うことが目的で、ある程度自由に過ごすことが出来る。

サロン…決められたプログラムを目的に参加する

- ・参加費の徴収について

他地区では1回200円いただいているサロンもある。

■集いの場について

- ・遠州浜ではラジオ体操をしている人が多い。

朝6:30ではあるが自宅からウォーキング→ラジオ体操→ウォーキングで帰宅

複数人でウォーキング＝移動する集いの場となっている。

- ・ぼっち(一人)歩きや犬の散歩をしている人を見かける。

→見かける＝周りの人が見守ってくれている。

- ・五島地区でさかんにグラウンドゴルフを行っている。

体育振興会で推奨しているため子供から高齢者まで参加している。

- ・遠州浜の夏祭りの参加状況は例年減少していた。

今年は屋台での出店をキッチンカーへ変更したところ参加者も増加し売上も増えた。

- ・買い物やサロン等の参加により外出することで、認知症の進行や予防にもなるため、自治会としても高齢者一人暮らしの方には集える場は必要だと思っている。

■外国籍の高齢者も増加

- ・遠州浜今年の敬老会の対象の中にも外国籍の方がいる。(3人ほど)

県外から移り住んだ方が多く、中には母国から家族を呼び寄せた方もいる。今は複数世帯だが、今後単身世帯になってしまうと日本語が話せない方は心配。

- ・日本の人だと施設に入所ということも考えられるが、そもそも認知症に限らず入所という概念という文化の違いがあるのか知りたい。

→HICEやJICAに聞いてみる。

- ・今年の自治会役員に2名ほど外国籍の方をお願いをした。

役員の依頼は日本語も話せたことがきっかけ。日本語の不自由な住民とのかけはし的な役割も担ってもらえた。

ただ文化や宗教についてこちら側も理解しなくてはいけない。

【河輪地区】

■「高齢者の集いの場一覧表」について

- ・西村会

浜松まつりの凧揚げのOBが主メンバー

月1~2回集まり飲み会や旅行に行っている。

派生団体として西友会もある。こちらは消防団や防災隊がメイン。

- ・東友会

毎月第1日曜日 神社の掃除ボランティアを行っている。

男性中心で年末に飲み会をしている。

- ・河輪会館について

居場所として開放できれば会館をもっと活用できるのではないかと

■河輪地区に合った集いの場とは？

- ・後継者がなかなか見つからない、サロンの継続が難しい。
- ・参加者について→高齢化しているが、皆さん歩いて参加している。
- ・会場について→エアコン、カラオケの設置により参加者が増加した。
- ・河輪上・下は会場の場所が良いので集まりやすい。
- ・空き家：古民家再生して何かやるみたい。声掛けして居場所的なものにならないか。
- ・公会堂で児童の勉強会をやっている。これに高齢者も参加できないか。子どもたちとの交流は高齢者も喜ぶ。
- ・自治会、敬老会間でも情報交換するとよい。
- ・空地进行家庭菜園で開放すれば話題になるし交流も生まれる。
→東町にすでにある？
- ・公民館が常に開いていると出入りしやすい。防犯面で難しい？
フリーWi-Fi→子どもや若者が集まるのでは。
健康マージャンができればどうか。

5 今後の見通し・
必要な対応

芳川圏域高齢者集いの場一覧表を使い、グループに分かれて新たにできた、発見した居場所や集いの場を共有してもらった。

地域の見守り体制について、まずは地域の居場所や集いの場から皆さんに意識してもらいながら協議を進めていく。